

相模原市と相模原市米軍基地返還促進等市民協議会による要請結果について

次のとおり実施しましたので、お知らせします。

- 1 日時 令和2年11月19日(木) 午前10時～午後3時30分
- 2 要請者 相模原市
相模原市米軍基地返還促進等市民協議会
(会長：相模原市長、副会長：市議会議長・市自治会連合会会長)
- 3 要請内容 「基地の返還等、米軍基地問題に関すること」

4 要請先等

要請先	応対者
防衛大臣	中山 泰秀 防衛副大臣
外務大臣	有馬 裕 北米局参事官
在日米陸軍司令官 (キャンプ座間)	トーマス R. マテルスキー 大佐 (在日米陸軍基地管理本部司令官)
在日米海軍厚木航空施設司 令官(厚木基地)	ハワード・サミュエルソン 広報部長
駐日米国臨時代理大使	メリッサ・スウィーニー 安全保障政策課長

※横田基地に対しては、在日米空軍第374空輸航空団司令官アンドリュー J. キャンベル大佐宛てに要請書を郵送

5 応対者の主な発言

【防衛省】

- ・返還4事案及び相模原住宅地区の北西側外周道路の返還については、いずれも市の道路整備に寄与するものであり、渋滞緩和のみならず、緊急車両のアクセス向上や住民の方々の安全確保に資するものと理解している。今後、返還に向け、市の意向も踏まえつつ、米側と協議していく。
- ・第38防空砲兵旅団司令部は、下位の防空部隊に対する指揮、統制及び調整を行っているものと承知している。司令部の駐留に際しては、地元の皆様に十分配慮し、最大限の安全対策をとるよう日米で協力していくとともに、地元の皆様のご理解とご協力を頂けるよう、今後とも誠意を持って丁寧に対応していく。
- ・キャンプ座間及び相模総合補給廠周辺の米軍ヘリコプターの騒音については、米側においても、できる限り飛行高度を上げて飛行する等、周辺住民の方々に配慮しながら飛行しているものと承知しており、引き続き米側に対し、安全面に最大

- 限配慮しつつ、周辺住民の方々に与える影響を最小限にとどめるよう求めていく。
- ・ オスプレイの飛来情報については、米側から、運用上及び安全上の理由から提供が困難である旨、説明を受けている。防衛省としては、引き続き、米側に対し、可能な限り適切な情報提供に努めるよう働きかけるとともに、米側から情報が得られれば、関係自治体の皆様にお知らせする。

【外務省】

- ・ 返還4事案の早期実現に向けて、防衛省と連携して取り組む。
- ・ 第38防空砲兵旅団司令部は、司令部のみの駐留であり、当該司令部の駐留に当たり、地元への影響等、十分配慮するよう、米側に求めていく。
- ・ 米軍機による騒音問題については、騒音規制措置に係る日米合意事項の順守を始め、騒音による影響が最小限となるよう求めていく。
- ・ オスプレイを含め、米軍機の運用については、安全性の確保を万全にすることが重要であり、米側にしっかり求めていく。

【キャンプ座間】

- ・ 要請内容については、日米両政府の調整機関である在日米軍に伝達する。
- ・ 第38防空砲兵旅団司令部について、皆様が懸念されていることは承知している。また、当該司令部の活動を把握するため、現場視察を希望されていることも承知している。新型コロナウイルス感染症の状況など、各条件が整えば、説明を行う準備は整っている。
- ・ ヘリコプターの騒音については、南関東防衛局及び神奈川県から入学試験や祝祭日等には飛行を自粛するよう、定期的に要請を受けている。今後も引き続き、これらの要請に対応するとともに、安全な運用に努める。
- ・ 災害等の有事の際には、近隣の地域を支援する体制が整っている。

【厚木基地】

- ・ 要請内容については、司令官及び関係機関に伝え、情報共有を図る。
- ・ ヘリコプターの飛行に関する要請については理解している。ヘリコプターの運用については適切かつ安全な運用に努めている。
- ・ 飛行隊による部品落下の防止についても大変真剣に取り組んでいる。毎年、関係機関と航空機事故等についての訓練に参加しており、連携を強化している。

【米国大使館】

- ・ 米軍の駐留が市民生活に様々な影響や支障を生じさせていることは理解している。私たちは良き隣人としての関係の構築に引き続き取り組んでいきたい。
- ・ 大使館として、地元の方々の意見を伺うことは重要であり、理解を深めることにもつながる。要請の内容は在日米軍並びに本国に報告する。
- ・ 基地の返還については、日米両政府間でなるべく前進するよう働きかけている。

問合せ先 基地対策課 電話 042-769-8207(直通)
